

いつも熊本日日新聞をご愛読いただきありがとうございます

台風も無事に去り、気温もぐっと下がってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？先週末はまだ暑い日もあったりして、衣替えも追いついていない方もおられるのでは？私だけでしょうか…(^_^;)日に日に寒くなると思いますので、風邪などひかれませんようにお過ごしください！



TARAGI YUNOMAE MIZUKAMI OKAHARU

球磨んタイムズ

地域と読者の架け橋

OKAHARU TARAGI YUNOMAE MIZUKAMI

編集・発行
熊日多良木販売センター
球磨郡多良木町大字多良木 356-1
TEL 42-3355 FAX 49-1726
http://www.taragi.com/
熊日湯前販売センター
球磨郡湯前町中里 1830 TEL 43-2151
代)小出堅太郎 石田敏郎 那須信一
編集：岩水由香

球磨んタイムズは当社ホームページでもご覧頂けます。また facebook ではコーナーごとに掲載中。「熊日多良木販売センター」を検索して下さい。

1996 2017

ス保三山ロウ展

MITSURU KUBO EXHIBITION

2017.10.21[土]-12.17[日] 湯前まんが美術館

http://www.kubomitsuruou-ten.com/

時間：9：30～17：00
会場：湯前まんが美術館

チケット	一般・大学生	小・中学生
スペシャルチケット	1,600円	1,400円
通常券	300円	100円
数量限定グッズ付チケット	1,200円	1,000円

※ご入場は各日閉場の30分前まで。

※スペシャルチケット・グッズ付きチケットはセブンチケットにて限定販売!!



粘土教室を始めます



写真は粘土で作ったティッシュケースとカゴ

水上村の「ギャラリー&カフェ宙」では、粘土教室の受講生を募集されています。講師を務めるのは村山悦子さん(多良木町)。現在5名の希望者がおられますが、今月末に教室の詳細が決定する予定です。予定としては火曜日に教室を開催。講習料が500円くらい、粘土などの材料費や会場使用料が別途かかります。「ギャラリー&カフェ宙」にはプロ・アマを問わず様々な物づくりに興味のある方や、画家などが集う場所になっており、作品の展示や販売なども行われています。そんな場所で美味しいコーヒーを頂きながら、粘土作品づくりを楽しんでみませんか？

お問い合わせは090-4353-1571 山神さんまで。

お店紹介

10月15日に新規オープンしたカフェレストラン「M's café」さんを紹介しします。オーナー兼シェフである落合将斗さんに、お勧めを注文すると「牛ヒレとフォアグラのステーキ」と「ローストビーフ丼」ができました。「牛ヒレとフォアグラのステーキ」は、柔らかい牛ヒレと濃厚なフォアグラを、赤ワインのソースで仕上げた豪華な一品ですが、牛ヒレは米国産牛やオージービーフ、フォアグラも一級品ではありながらポーションカット(端切れ)を使用するなどして、お手頃な価格で提供されています。「ローストビーフ丼」は、じっくり低温で肉に火を入れることで、柔らかくジューシーな仕上がりに。またご飯は醤油香るバターライスになっていて、ローストビーフとの相性はバッチリ。飽きが来ず美味しく頂けます(更に夜はウニを乗せ、お出汁と合わせてお茶漬け風にして召し上がることが出来ます)。その他、ピザやパスタなどメニューも豊富なのですが、手打ちの生パスタにピザ生地、ソースも全て手作りというこだわり。単品料理も数多く取り揃えてあるので、居酒屋風にもご利用できます。落合さんは元々、焼肉店やバーテンダー、割烹居酒屋など様々なジャンルの料理に携わっていましたが、今回の出店に当たり、先輩や友人からも色々と意見を求めて、このスタイルでいこうと決心されました。現在はお客様の動向を見ながら、試行錯誤されていますが「プチ贅沢を味わいつつ、気軽に立ち寄れるお店となれるよう、メニューも随時見直しながら、いずれは魚料理など和食メニューも取り入れていきたい」と話されています。

是非足をお運びください。



ランチメニューは¥780～お得なセット込み価格(ご飯、スープ、サラダ付き)や、ドリンクバー付きの軽食メニューなど
その他「数量限定レディースセット(日替わり3品 コーヒーまたはデザート)や、お子様ランチ¥680など
女性やお子様にも嬉しいメニューや、キッズコーナーも完備されています。

ドリップコーヒー¥350
プレミアムモルツ¥450他



オーナーの落合将斗さん(右)奥様のさおりさん



M's café
多良木町多良木 882-1
TEL0966-35-6619
営業時間
AM10:00～PM10:00
(ラストオーダー PM9:30)
定休日：火曜日

次のページへどうぞ



さがのせのくえふりもり 相良清兵衛頼兄のお墓

あさぎり町岡原南岡麓の諏訪神社(岡名城跡)の鳥居のそばには3基の墓碑がありその1基に「天金本然居士」と刻まれた墓石があります。このお墓が相良清兵衛頼兄(清兵衛どん)の墓で、平成15年8月に求麻郷土研究会によって確認されました。清兵衛どんは相良家の家老を務め、関ヶ原の戦いでは、その智謀により相良家安泰に導きお家存続に大きな貢献をした人で、相良七百年で奇才と豪胆とを持ち合わせた無比の人傑といわれています。寛永十三年(1636)、清兵衛どんは68才になり岡麓の城に立派な隠居所を造りましたが、人吉から裕福な町人を移住させたことで、人吉の町家はさびれてしまいました。藩主の相良頼寛公も手におえない状態となっていて成敗したいと考えていました。しかし徳川家康にお目見えした人であり、下手をするとお家取り潰しになりかねないほどでした。でも、ついに頼寛公は清兵衛どんの横暴を「清兵衛私曲十三ヶ條」にしたためて幕府に訴えました。寛永十七年(1640)、幕府評定所で裁判が行われました。その結果、清兵衛どんは弁明通らず津軽藩弘前に流罪となりました。岡麓での生活は4年間で、弘前にて88才で亡くなりました。

～秋分、新聞、歴史館から静けさを感じて～

『騒がしい』。肥後藩校の時習館二：な道でさみしい』、『お経を上げてお代校長、藪孤山先生の「静」の書を米をもらって百舌鳥ないで、『まつ眺めることが多くなった。たく雲がない笠をぬぎ』など自然と秋分の日、鵜ノ口観音の赤飯、宮原観音のおはぎ、普門寺観音の煮しめ、おもてなしの相良三十三観音と古寺の城泉寺、青蓮寺をめぐり、山里の静けさを満喫した。感動し続けた2日間だった。4日は中秋の名月、庭に収穫した栗、芋、柿を一升研の中に入れ、高坏に団子をのせ一升びんにすすきと彼岸花を生けお月さんにお供えした。その横に茶台を出し、お気に入りの茶碗でお茶を点てた。「うさぎさんの餅つきは終わったかな」など想像しながら2時間ほど横になり月を眺めた。虫の音、キンモクセイの清々しい香り、爽やかな風が漂い明月に包み込まれた。すると熊日新聞の【きょうも隣に山頭火】に連載されている、『つかれた足へ蜻蛉(とんぼ)がとまった』、『みんな寝てしまつてよい月夜かな』、『酔うてこほろぎと寝ていたよ』、『秋の空高く巡査に叱られた』、『まつすぐ

(原稿提供：多良木高等学校 川北禎一先生)



スポーツ愛・I・アイ

伝統校で学んだ、耐える力・乗り越える力 椎葉懸生さん(17) 湯前町 球磨工業高校3年

10月に行われた愛媛国体(カヌー競技)に出場した湯前町の椎葉懸生さんが、カヌー競技で、全国にその名を広めた。身長178cmと体格にも恵まれ、長いリレーを生かしたドリナミックなパフォーマンスで、大会優勝を果たした。大会も優勝を逃さず、全国的にも賞状を手にした。高校生活最後の大会となった。悔しくも優勝を逃さず、全国的にも賞状を手にした。高校生活最後の大会となった。悔しくも優勝を逃さず、全国的にも賞状を手にした。



「競技生活で得た経験を次のステップへ」と。高校生活最後の大会となった。悔しくも優勝を逃さず、全国的にも賞状を手にした。高校生活最後の大会となった。悔しくも優勝を逃さず、全国的にも賞状を手にした。



次回発行日は11月11日(土)予定です。お楽しみに!!

「おはなし会」



子供たちが本に親しみ、読書をするきっかけにしようと、年に数回、読み聞かせボランティア「かぜ」(代表：梅木淳子様)による「おはなし会」を実施しています。今年度1回目は、9月25日(月)に小学部で実施しました。子供たちは、どんな絵本が登場するのか、ワクワクドキドキしながら待っていました。今回は、『おちばいちゃ』や『さつまのおいも』など秋をテーマにした絵本や、絵本のページがどんどん横に広がっていく不思議な絵本などを読み聞かせしてくださいました。みんなが大好きな『だるまさん』では、一緒に声をそろえて「だ・る・ま・さ・ん」が「ころんだ～」と、にぎやかな声が響き渡る場面もありました。また、綺麗な挿絵に見入ってじっと聞いたり、話の展開に「わあー!」と歓声を上げたりと、子供たち全員がとても楽しい時間を過ごすことができました。読み聞かせを通して、絵本の面白さや不思議さなどを感じ、豊かな心を育ててほしいと思っています。(原稿・写真提供：球磨支援学校)

暖談なあ ◆俳句や短歌に代表されるように日本語のリズムは五音、七音、いわゆる七五調が基本のようです◆「もしもし亀よ亀さんよ」「春高樓の花の宴」など童謡、唱歌、歌謡曲なども七五調、五七調はけっこう目につきます◆ところが人吉出身の犬童球溪作詞「旅愁」「故郷の廃家」を口ずさんでいて、「味違うのに気づきました」「更け行く秋の夜旅の空の」「幾歳ふるさと来てみれば」と、八六調、八五調になっていくのです◆オードウェイ、ヘイスという外国人の作った曲のリズム、メロディーを尊重しながら、歌詞を生み出したあたりにはヒントがあるような気がします◆どちらでも明治40年の中等教育唱歌集に掲載され、一世を越えて歌い継がれた名曲。日本古来のリズムをちよつと崩した郷土の大先輩を、こんな視点も交えて誇りにし、歌い継ぐのも味がありますね。(X)